

地域活動部員の

今年のごめんネ!



ごめんなさい!!
 携帯電話をなくしたと
 思ってた。普通に家にあった。
 ごめんなさい。(中)

知り合いから取材を
 頼まれたネタ。忙しい
 のをいいことに忘れた
 フリを何度かして
 しまいました。
 ごめんさい
 (阿)

会場を使う予定のパソコン
 を会社に置いてきたのは私
 です。(宮)

大雨の日、急いで運転して
 いて歩いていた方にはねをとばしてしま
 いました。本当に申し訳ないです。(長)

大人になってからすうようにな
 ったタバコを今年もやめら
 れませんでした。来年こそや
 めるぞ!(西)

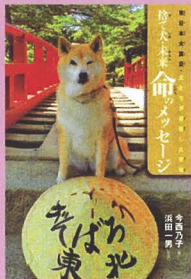
みんなの「言ってスッキリ!ごめんね」情報も送ってね。忘年会の1芸、1品の写真や絵も持って来ーす!



あーちゃん(飯田市4年)

「捨て犬・未来 命のメッセージ」

著・今西乃子 写真・浜田一勇 岩崎書店



本回とびら

「未来」という捨て犬のお話です。未来は子犬の時に虐待を受けました。右目や後ろ足を切られ、捨てられた犬です。未来は処分される寸前に、やさしい人に救い出され、今は著者の今西乃子さんの家族になっています。

そんな未来が、東日本大震災で被害を受けた宮城県東松島市の矢本第一中学校の「命の授業」に、今西さんとともにまねかれました。矢本第一中学校は震災の時に、ペット同行可能な避難所となっていました。

未来と今西さんは、生徒たちにどんなことを伝えたのでしょうか。そして生徒たちの感想は…。「命」について考える本です。定価1365円。(宮)

みんなに読んでほしい大好きな本をぜひ教えてね。はがきやお手紙、ファクス、メール、なんでもオッケー。表面にある「こども記者クラブ」あてに送ってください。けいさいのおれいに「なーのちゃんタオルハンカチ」をプレゼント!



青柳明里(長野市3年)

のりーい!

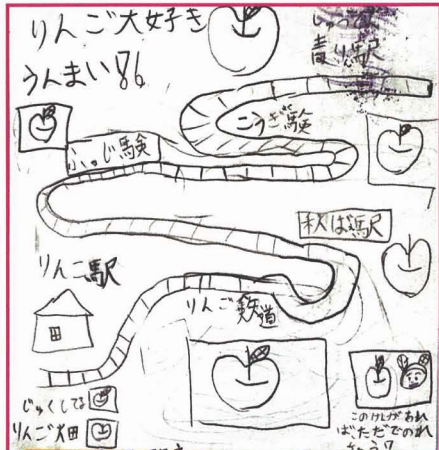


しばらく旅に出ます

こども新聞たんとうの1人 長沼佳史

11月いっぱい、子どもを産むため、お休みさせていただきます。この2年間、こども記者のみなさんと過ごし、クールなまなざしに背すじがのびたり、型破りな記事やアイデアに頭やお腹をかかえたり。変化に富み、あつという間でした。

お休み中の私のミッションは、次にみなさんといっしょに何ができるか、ヒントを拾い集めること。だって面白いんだもん! 元気にお過ごしくださいね。Thanks a lot. 再見!



あや(長野市4年)

もし 記者じゃなかったら 外国を相手に働きたかった

私が小学生だった40数年前の長野県は、東京からも大阪からも大変遠い土地でした。今なら新幹線や特急電車、ジェット機、高速バスなどに乗って好きな所へ短時間でいけるので、皆さんには想像できないかもしれません。

しかも、私の家は農家なので、子どもであっても稲作や養蚕などの手伝いをしなくてはなりません。そんな田舎での暮らしがつまらなく、どうやったら外の世界に飛び出せるだろうかと考えました。ぼんやりながらも私があこがれたのは、外交官や商社マンとして外国を相手に働くことです。

それには英語が必要でした。中学に入って初めて習った英語に、私はとてもワクワクしました。3年間授業を受け持ってくれた先生の発音や教材のテープから流れる外国人の声に引き付けられ、家でラジオで英会話の講座を聞くようになりました。好きこそもの上手なれ、といいます。英語を通して外国文化への興味が広がっていききました。

編集応答室 室長 松井一明

高校入学後、あこがれはさらに強まりました。たまたま私はある留学制度に応募することができ、17歳だった3年生の夏から1年間、アメリカの小さな町でホームステイし、地元の高校に通いました。初めての外国生活を体験したことで、将来も日本を離れて仕事することにちょっと自信が付きました。

けれども、大学生のころ、違う分野に関心が向くようになりました。それは新聞記者です。記者はニュースを求めているような現場に足を運び、たくさんの人と会って話を聞きます。外国との接点もあります。私は1994年にノルウェーで開かれたリレハンメル・パラリンピック取材しました。1週間ほどでしたが記者として北欧に滞在し、子どものころの夢がかなったと思えました。その後の98年長野五輪とパラリンピックでは長野がまるで外国のような街になり、興奮の毎日だったのを覚えています。

